一般社団法人日本医療薬学会 第 101 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 101 回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長　浜田 幸宏
（高知大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

2026 年 10 月 3 日（土)、高知市立中央公民館 11 階大講義室において、第 101 回医療薬学公開シンポジウムを現地開催いたしました（主催：一般社団法人日本医療薬学会、共催：高知県病院薬剤師会)。「薬剤師の育成と連携～卒後臨床研修と出向から考える地域医療～」をメインテーマに掲げ、51 名の方々にご参加いただきました。

特別講演では、高知大学医学部附属病院 教授・薬剤部長の浜田 幸宏より「高知県の薬剤師育成と連携に関する動向」と題して講演を行いました。人口減少や高齢化、薬剤師の地域偏在といった高知県が抱える課題を踏まえ、卒後教育や専門薬剤師育成の取り組み、病院・薬局・行政・教育機関の連携を通じて、地域全体で薬剤師を育成する仕組みの重要性を共有しました。

続くシンポジウム「薬剤師出向がもたらす薬剤業務の標準化と展望」では、4 名の先生方からご講演いただきました。

近森病院の尾﨑 正和先生からは「薬剤師出向研修の経験と今後への課題」と題し、幡多けんみん病院への 1 年間の出向経験を通じた病棟業務や多職種連携への参画、出向先への知識の還元と帰任後の業務改善についてご講演いただきました。

高知県立幡多けんみん病院の藤近 拓弥先生からは「薬剤師出向がもたらした薬剤業務の変革～地方中核病院における実践と展望～」と題し、出向薬剤師の受け入れを契機とした業務手順の見直しや標準化、病棟薬剤業務の充実などの成果についてご講演いただきました。

愛媛大学医学部附属病院の坂本 裕哉先生からは「地域病院の薬剤業務の質向上における出向薬剤師の役割」と題し、ローテーションによる出向を通じた病棟業務、医薬品情報業務、抗がん剤無菌調製体制、教育体制の整備と、その継続に向けた課題をご講演いただきました。

徳島大学の小川 敦先生からは「人口減少・病床再編時代における地域医療の課題～中山間地域の現実と薬剤師の役割～」と題し、徳島県那賀町での取り組みをもとに、限られた人的資源の中での薬剤師業務の再構築と地域医療を担う人材の育成についてご講演いただきました。

本シンポジウムを通じて、薬剤師の出向は単なる人員補完にとどまらず、施設間での知識・経験の共有を促し、薬剤業務の標準化や質向上、さらには地域医療を担う薬剤師の育成につながることを改めて考える機会となりました。今後も施設や地域の枠を越えた連携を深め、持続可能な薬剤業務の体制構築を進めていくことが重要と考えられました。

最後になりましたが、ご講演を賜りました演者の先生方、座長をお務めいただいた先生方、共催いただきました高知県病院薬剤師会、企画・運営にご協力いただきました関係各位ならびに日本医療薬学会事務局の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。